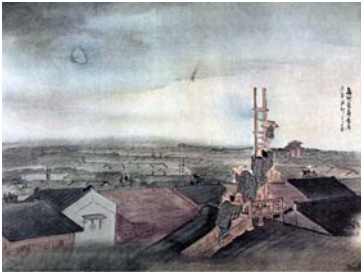


主題：「現代の火の見櫓」

— 最新の映像・情報処理技術の消防防災分野への利用について —



主催：東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻
消防防災科学技術寄付講座
会場：東京大学 山上会館大会議室
日時：平成23年3月1日(火)
13:30～17:00(13:15 開場)



● 趣旨

かつて、全国津々浦々、火の見櫓が設置され、火災の状況把握と住民への危険を知らせる大切な役割を担っていました。もちろん火の見櫓は、現在でも地元の消防団等に活用されています。しかしながら建物の高層化と共に見通しがきかなくなり本来の機能が損なわれ、今や町の風物詩、伝統的建造物としての価値が認められ辛うじて残っている状態になりつつあります。

それでは、火の見櫓は不要になったか？という点、決してそんなことはありません。住民の安全避難や消防活動上、高所から多くの情報を得るということは、複雑・高密化した現代にあっても今まで以上に重要になってきています。高感度・高解像度の映像技術や大量の情報の伝送技術を効果的に利用する事によって、現代版の火の見櫓としてその活用が望まれています。

今回の公開セミナーでは、街頭レベルから、飛行機、衛星レベルまで含めた幅広いスケールから、火の見櫓に変わる住民の安心・安全の担い手としての技術開発と消防活動への活用について専門家の方々に講演いただき、今後のあり方についても議論を深めていただければと企画いたしました。

● 講演内容

全体司会：廣井 悠(東京大学)

13:30-13:40 挨拶および主題解説 山田 常圭 (東京大学)

13:40-14:20 (1) 「衛星からの林野火災観測と消防への情報提供」

中右 浩二 (宇宙航空研究開発機構/地球観測研究センター)

14:20-15:00 (2) 「ヘリコプターを用いた災害情報取得と伝送方法」

尾崎 裕 (三菱電機(株))

15:00-15:40 (3) 「屋外における放火監視と防犯環境設計」

菅田 寛 ((財)社会安全研究財団)

15:40-16:20 (4) 「震災時において不可避免的に発生する情報問題と高所見張りによる火点決定手法の高度化—三角測量やレーザー測距技術の活用—」

杉井 完治 (京都市消防局)

休憩 (10分)

● 討 論

16:30-17:00 (4) パネルディスカッション

司会

細川直史 (消防研究センター)

パネリスト

尾崎裕、菅田寛、杉井完治

● 参加方法

- ・ 参加費用：無料
- ・ 定員：先着 70名（事前登録者優先）
- ・ 事前登録：特に必要はありませんが、会場の席や資料の準備の都合もありますので、下記に、参加氏名、所属、連絡先を頂きたいをお願いします。

- ・ 地図：



【本件に関する問い合わせ先】

東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻
消防防災科学技術寄付講座（担当者 廣井・大岩）
TEL:03-5841-7255, FAX:03-5841-7327
E-mail: shobo@fse.t.u-tokyo.ac.jp